

関係機関等の長 殿

国立大学法人北海道大学

大学院歯学研究院長 飯 村 忠 浩  
(公印省略)

口腔健康科学分野硬組織微細構造学教室教授候補者の公募期間延長について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本研究院では口腔健康科学分野硬組織微細構造学教室教授候補者を公募しておりましたが、より幅広く人材を求めるため、公募期間を延長することといたしました。

本教室は、組織学、口腔組織学、発生学およびその関連分野の教育を担当し、学部学生の講義・実習、および大学院生の当該分野における講義（硬組織機構解析学、硬組織発生生物学、硬組織機構解析学研究、硬組織発生生物学研究等）と研究指導を担うとともに、口腔医学および生命科学の発展に寄与する教育研究活動を推進しております。

本公募では、従来の教育・研究を継承・発展させるとともに、口腔機能解剖学教室と協調しながら形態系教育の充実に貢献し、組織学、発生学および解剖学を統合的に理解できる人材の育成に寄与する方を求めます。また、本学当局および学内関連部局教職員とも連携しながら、医学・歯学の発展を支えるために不可欠な解剖学教育・研究体制の構築・維持と篤志献体制度の維持に貢献することが望まれます。

研究面においては、研究分野は硬組織学に限定せず、組織学、発生学、細胞生物学およびその関連分野で独創的研究を展開し、学際的・国際的に高い評価が得られる研究を推進できる人材を求めます。例えば、先進のイメージング法や生命情報科学等の先端的研究手法を活用し、新たな研究領域を切り開く意欲を有する方を望みます。また、次世代の研究者・教育者を育成するとともに、学内外および国際的な共同研究を積極的に推進し、口腔医学および生命科学の発展に寄与する人材を求めます。

さらに、歯学研究院、歯学院および歯学部ならびに北海道大学の管理運営に積極的に参画し、本学の発展に寄与する人材を求めます。

本公募は本学における男女共同参画推進施策の一環として、男女雇用機会均等法第8条の規定に基づき、選考において評価が同等である場合は、女性を優先して採用します。

つきましては、貴機関関係者にご周知いただくとともに、適任者をご推薦賜りますようお願い申し上げます。

謹白

※ 公募要領については、

本研究科ホームページ (<http://www.den.hokudai.ac.jp/jimu/koubo.html>) 及び研究者人材データベースシステム (<http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) でもご覧になれます。

口腔健康科学分野硬組織微細構造学教室教授候補者

公 募 要 領

I. 提出書類

下記の1～10の書類各1部と、2～10をそれぞれPDFファイルで保存した記録媒体（CD、DVD、USBメモリ等）

1. 推薦書
2. 履歴書（別紙様式1）
3. 教育等の業績
4. 研究業績目録、業績数一覧表（別紙様式2）
5. 主要論文別刷
6. 研究助成金の受領状況
7. 共同研究等の実施状況
8. その他の活動、社会貢献等
9. 教育、研究、献体および人体標本を用いた教育に関する倫理および安全管理、管理運営に対する考え方

（提出書類の作成に際しては、別紙記載上の注意事項を参考にしてください。）

II. 応募締切

令和8年10月2日（金）必着

III. 提出先

〒060-8586

札幌市北区北13条西7丁目

北海道大学歯学事務部庶務担当

電話 011-706-4313（直通）

（注）提出書類は書留とし、封書表には「口腔健康科学分野硬組織微細構造学教室教授候補者応募書類在中」と朱書願います。

なお、ご送付いただいた書類および記録媒体は返却いたしませんので、予めご了承ください。また、ご送付いただいた書類等は教授候補者選考以外には一切使用いたしません。

IV. 照会先

口腔病態学分野 教授 樋田 京子

電話 011-706-4236(直通) 電子メール khida@den.hokudai.ac.jp

V. 採用予定時期

令和9年4月1日のできるだけ早い時期

VI. 待遇

1. 任期の定め なし
2. 試用期間 あり（3ヶ月）
3. 給 与 国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程による
4. 勤務形態 専任教員  
同意に基づく専門業務型裁量労働制（※）または固定労働時間制を適用（※1日に7時間45分労働したものとみなす）
5. 健康保険等 文部科学省共済組合、厚生年金、労災保険、雇用保険加入
6. 所 属 （雇入れ直後）大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 硬組織微細構造学教室  
（変更の範囲）大学の定める場所
7. 職務内容 （雇入れ直後）大学院歯学研究院及び歯学部（全学教育を含む）に係る教育研究に従事するとともに、全学及び研究院等における各種委員会委員等の管理運営業務に従事  
（変更の範囲）大学の定める業務

VII. 募集者の名称

国立大学法人北海道大学

VIII. 受動喫煙防止措置の状況 特定屋外喫煙場所を除き、敷地内禁煙

IX. その他

選考の過程において、ご来学の上、ご講演及びご面談をお願いすることがあります。本公募は本学における男女共同参画推進施策の一環として、男女雇用機会均等法第8条の規定に基づき、選考において評価が同等である場合は、女性を優先して採用します。

## 記載上の注意事項

＜用紙はすべて A4 版縦とする＞

### 1. 推薦書

推薦書の様式は自由であるが、推薦者の所属・職名を明記すること。

### 2. 履歴書

- 1) 年齢欄には、令和 X 年 X 月 XX 日現在の年齢を記載すること。
- 2) 学歴欄には、高等学校卒業以降の学歴を記載すること。
- 3) 学位欄には、( ) 書きで授与された大学名を併記すること。
- 4) 職歴欄には、所属の講座、診療科名等も記載すること。
- 5) 留学欄には、期間、受入施設名、国名、身分を記載すること。
- 6) 受賞等欄には、学会賞等の受賞について記載すること（本人筆頭のものに限る）。
- 7) 所属学会欄には、学会名及び役職名等を記載すること。

### 3. 教育等の業績

＊項目毎に、応募者の教員採用前（大学院、医員等）と教員採用後に分けて記載すること。

#### 1) 講義

学部学生と大学院生の講義について、それぞれの担当授業科目名、担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数を記載すること。なお、担当時間数はコマ数として記載し、1 コマの時間（60 分、90 分等 分単位で）も併記すること。

#### 2) 実習

学部学生、および大学院生の実習について、それぞれの担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数（コマ数）を記載すること。特に、組織学実習、口腔組織学実習、発生学教育等への関与状況について記載すること。

なお、1)、2) に関して、人体系統解剖講義・実習への教育経験があれば、記載すること。

#### 3) 博士論文の指導状況

これまでに応募者が研究指導を行った博士論文について、著者全員の氏名（欧文の場合は、名はイニシャル）、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序で記載し、その後に応募者の指導内容（役割）を記載すること。なお、応募者の氏名が研究指導者として論文に明記されていないものであっても、応募者が実質的に研究指導を行った論文については、これに含めて差し支えない。また、原著論文と重複しても差し支えない。

#### 4) 学生指導

学部及び大学院学生等の個別指導（クラス担任、学生相談、クラブ活動、留学生指導等）の時期及び内容を記載すること。

#### 5) 委員会活動

大学内外における各種委員会活動について、その時期（期間）及び委員会名とその委員会での役割を記載すること。

### 4. 研究業績目録

以下の順序で記入し、1) から 7) の各項目別に通し番号を付すこと。また、記載はすべて年代順とし、本人の名前に下線を引くこと。また、業績数一覧表（別紙様式 2)）にも記載すること。

#### 1) 著書

##### ① 編著者の場合

編著者全員の氏名、発行年（西暦）、書名、発行社名、発行地、総ページ数の順序で記載すること。

##### ② 分担執筆の場合

分担執筆者全員の氏名、発行年（西暦）、分担執筆部分のタイトル、編者名、書名、発行社名、発行地、記載ページ（始めと終わり）の順序で記載すること。

#### 2) 原著論文

各論文について、著者全員の氏名、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序（欧文誌の場合は、欧文表記）で記載すること。また、原著論文のうち、レフリー制度をもつ論文については、通し番号を○印で囲むこと。さらに、英文原著論文については、impact factor のある論文とない論文に分けて記載すること。各論文の記載項目の最後に、発行年の impact factor (IF) および応募時点での citation index (CI) を、(IF: 、CI: ) のようにカッコ書きで付記すること。論文リストの末尾に IF および CI の合計、h-index を記すこと。なお、IF、CI、h-index は、Clarivate Analytics 社の Web of Science Core Collection を用いて検索・集計すること

(URL:<https://www.webofscience.com/wos/woscc/basic-search>)。

また、corresponding author の名前の右上に＊をつけること。

印刷公表前の論文については必ず掲載証明書を添付すること。なお、シンポジウムや Proceeding などの論文は、後記する 3) 総説・症例報告・速報・その他の論文（商業誌等）に記載し、原著論文の業績に含めない。

#### 3) 総説・症例報告・速報・その他の論文（商業誌等）

前記 2) 原著論文と同様に、IF のある論文とない論文に分け、各項目を記載すること。なお、IF のある総説・症例報告についても、記載項目の最後に、発行年の IF

および応募時点での CI を付記すること。IF および CI の合計、h-index も前記 2) と同様に記すこと。印刷公表前の論文の扱いについても前記 2) と同様、掲載証明書を添付する。

#### 4) 特別講演・シンポジウム等

これらはすべて筆頭演者として招待されたものに限る。発表者全員の氏名、発表年（西暦）、発表タイトル、学会名等（抄録誌、巻、ページ）の順で記載すること。国際学会等での発表の場合は、欧文表記で良い。

#### 5) 主な国際学会発表

筆頭演者として発表したものに限り、前記 4) に準じて記載すること。共同演者として発表したものについては学会名と数のみ記載すること。

#### 6) 主な国内学会発表（最近 5 年間、2021 年 4 月以降のもの）

筆頭演者として発表したものに限り、前記 4) に準じて記載すること。共同演者として発表したものについては学会名と数のみ記載すること。

#### 7) 特許等

取得済・出願中の別を記載すること。

### 5. 主要論文別刷（主なもの 10 編、電子複写でも可）とその要旨

別刷を提出する主要な論文 10 編について、著者全員の氏名（欧文の場合は、名はイニシャル）、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序で記載し、その後にそれぞれ 200 字以内の要旨を添付すること。

### 6. 研究助成金の受領状況

これまでに受領した科学研究費補助金等の研究助成金の受領状況について、受領年度（期間）、研究助成金の名称、課題番号、研究課題名、受領金額を記載すること（研究代表者に限る）。

### 7. 共同研究等の実施状況

これまでに行った学外・学部外施設との共同研究について、実施年度（期間）、共同研究施設名、共同研究課題、応募者の役割分担を記載すること。  
国際共同研究についてはその旨を明記すること。

### 8. その他の活動、社会貢献等

### 9. 教育、研究、献体および人体標本を用いた教育に関する倫理および安全管理、管理運営に対する考え方（今後の方針を含めて）

硬組織微細構造学教室担当教授として考えるところを、以下の項目に従って記載する

こと。

(各 2、000 字程度)

- 1) 教育について
- 2) 研究について
- 3) 献体および人体標本を用いた教育に関する倫理および安全管理について
- 4) 管理運営について

以上